

(お知らせ)

地方自治体各位 殿

30. 9. 4
千歳基地基地対策室

千歳基地所属F-15Jの部品落下事案について

1 概要

本日（9月4日）14時14分に要撃戦闘訓練のため千歳飛行場を離陸し、日本海上空において訓練の後、15時29分に同飛行場に着陸した当団所属のF-15戦闘機の左エルロン下部に貼っていた修理ストラップ（長さ約60cm、高さ約7cm、重さ約50g）1枚が着陸後の点検で紛失しているのが発見されました。

現在、外部からの被害情報は入っていません。

詳細については確認中です。

2 発生日時

平成30年9月4日（火）14時14分から15時29分までの間

3 発生場所

千歳飛行場から日本海の間

4 部隊名

航空自衛隊 第2航空団

5 機種等

F-15J戦闘機

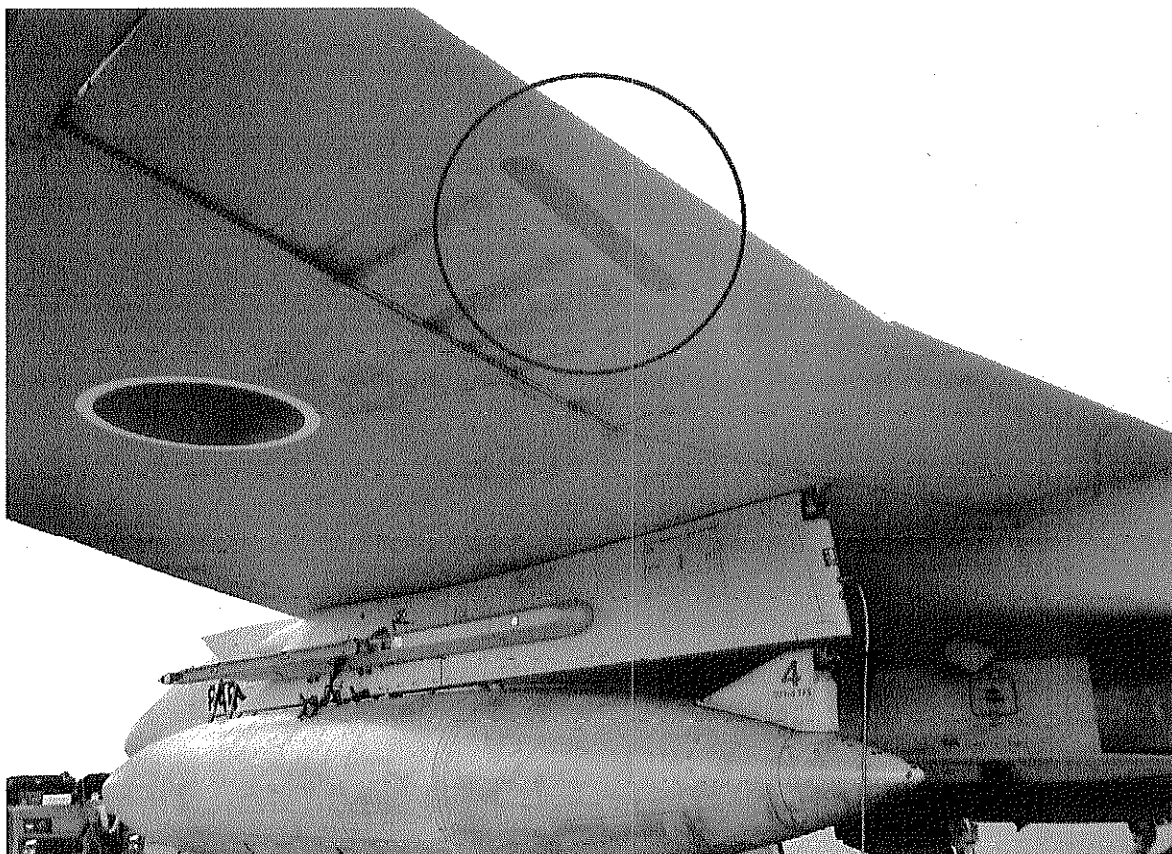
6 部外への被害状況

現在まで被害の通報はない。

連絡先：千歳基地基地対策室

TEL 0123-23-3101（内線2214）

FAX 0123-23-6469（直通）



(お知らせ)

30. 10. 31

千 歳 基 地

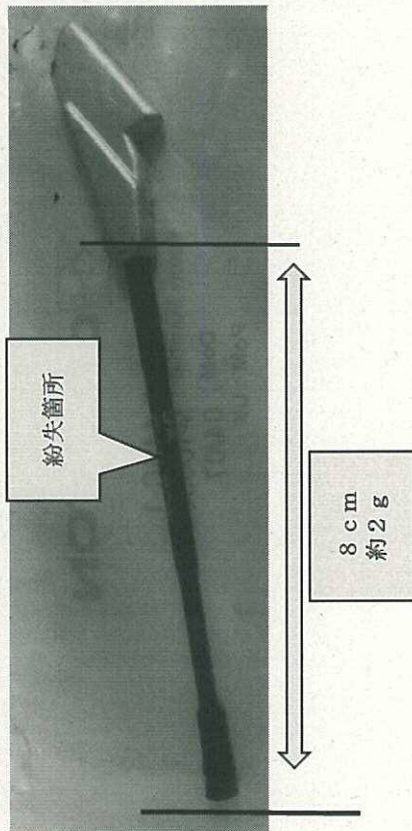
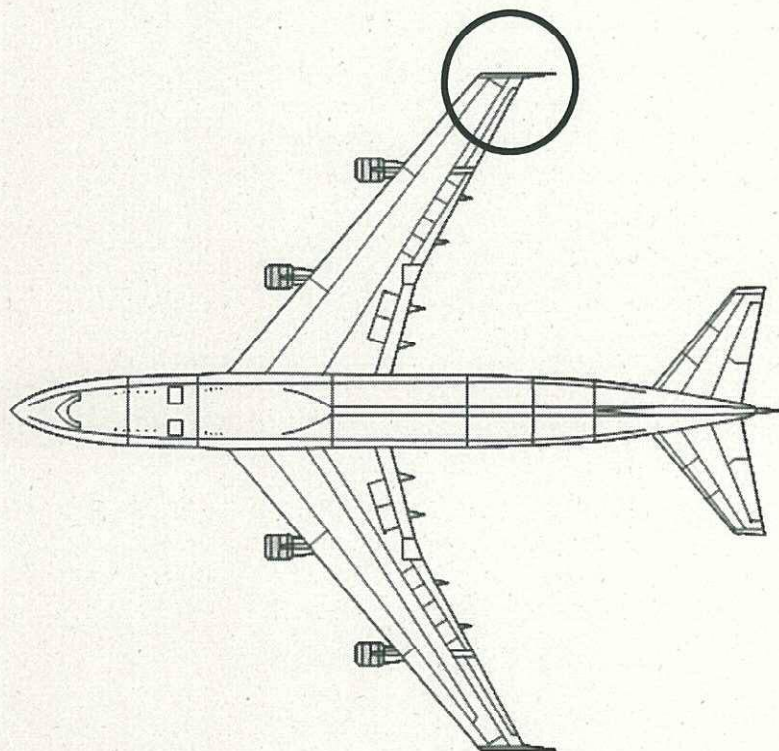
平成30年度（上期）航空機の部品落下事案について

標記について、平成30年4月から平成30年9月までの部品落下事案を付紙のとおりお知らせします。

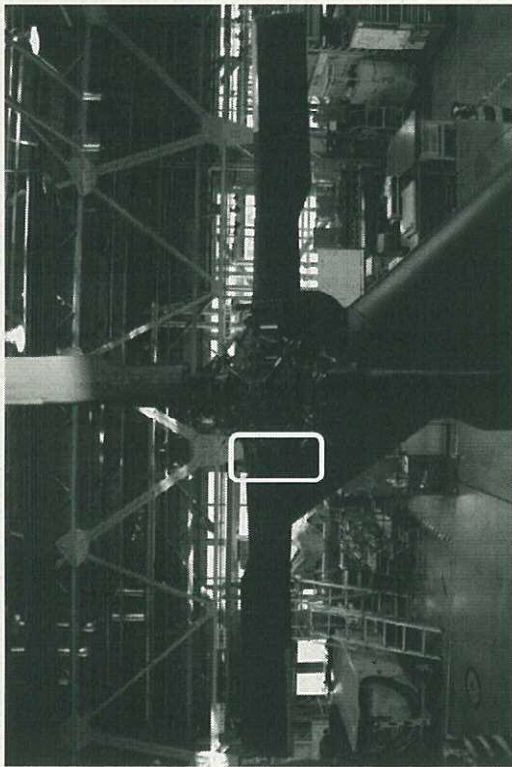
添付書類：付紙「平成30年度（上期）千歳基地航空機の部品落下一覧表」

平成30年度（上期）千歳基地航空機の部品落下一覧表

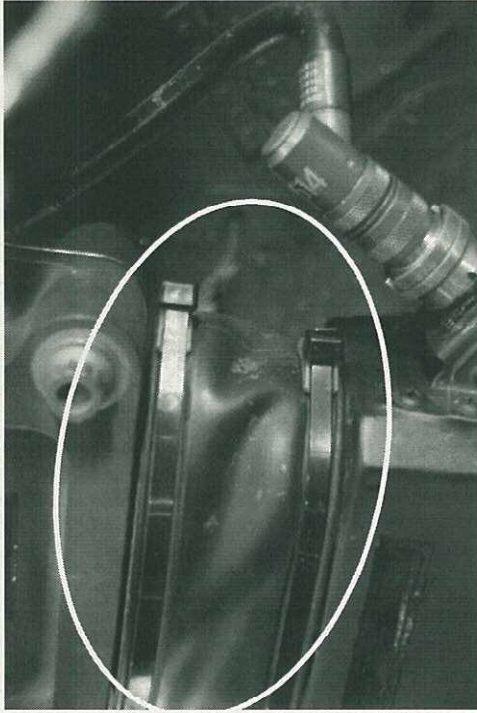
番号	発生日	機種	落下部品	
			部位等	大きさ・形状
1	30.5.11	B-747	スティックディスチャージャー	大きさ：長さ80mm×直径4mm 重さ：約2g 材質：カーボンファイバー
2	30.6.4	UH-60J	①テールロータープレート・ラバー パーツの一部 ②結束バンドの一部 ③緩衝材	①大きさ：約75mm×45mm 厚さ：約1.5mm 重さ：約5g 材質：ゴム ②大きさ：約20mm×5mm 厚さ：約2mm 重さ：約1g 材質：プラスチック ③大きさ：約30mm×10mm 厚さ：約10mm 重さ：約1g 材質：プラスチック



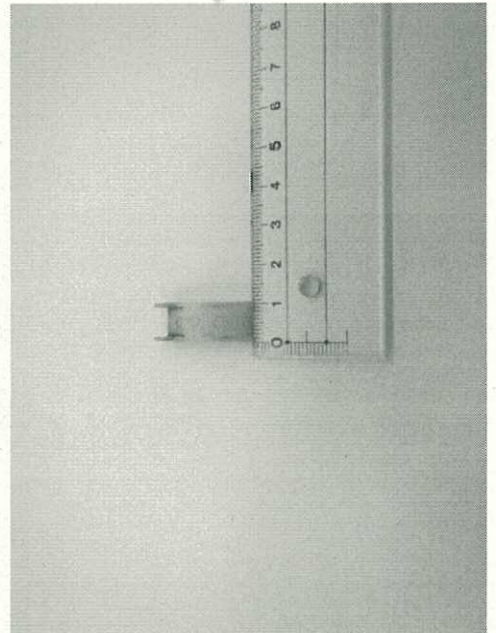
UH60J テールローターブーツほか



破損部位



緩衝材



(お知らせ)

30.4.25

千 歳 基 地

平成29年度（下期）航空機の部品落下事案について

標記について、平成29年10月から平成30年3月までの部品落下事案を付紙
のとおりお知らせします。

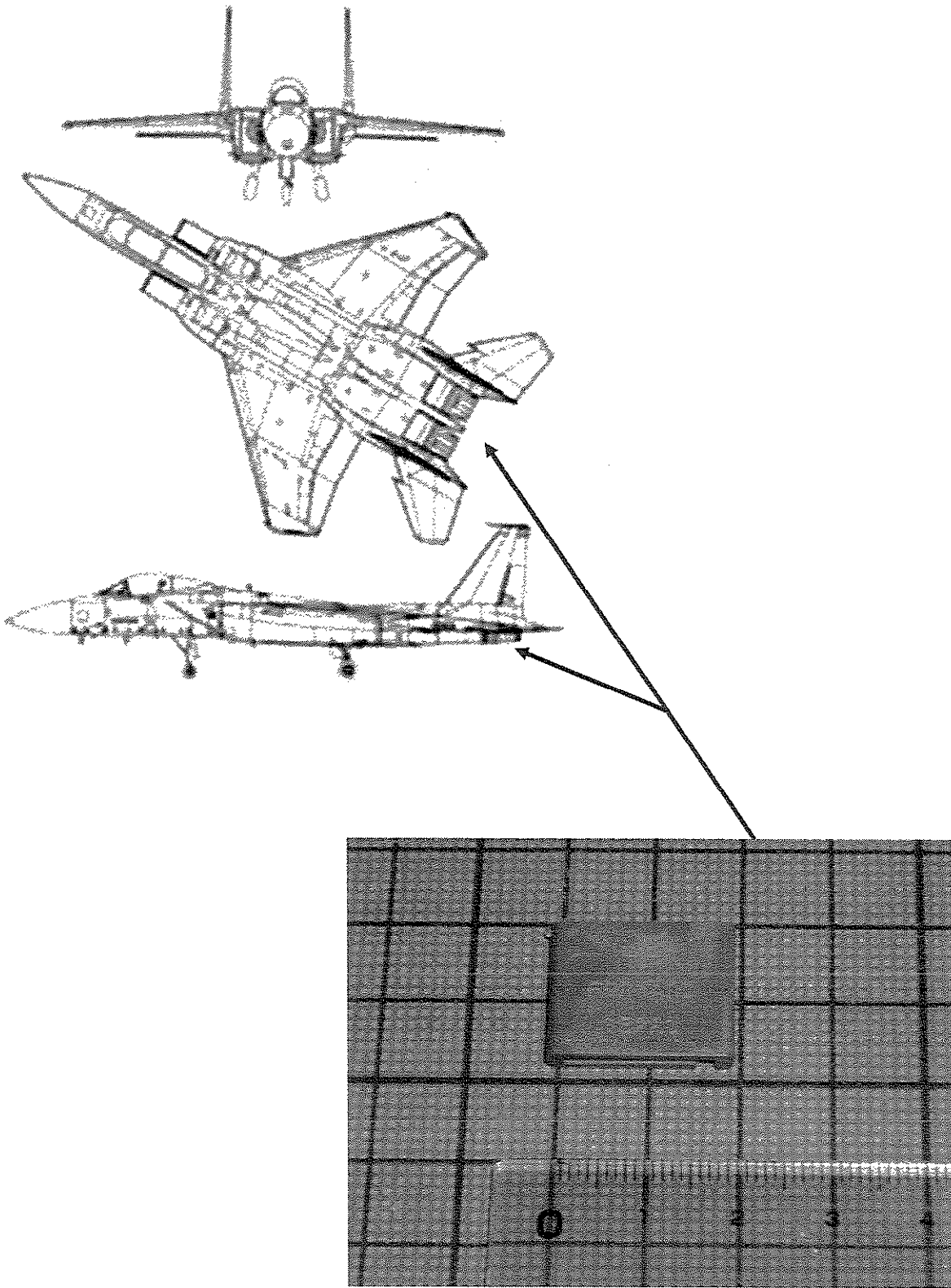
平成29年度（下期）千歳基地航空機の部品落下一覧表

番号	発生日	機種	落下部品	
			部位等	大きさ・形状
1	29.10.17	B-747	インストラクション・デ カール	大きさ：5cm×12cm 厚さ：0.5mm 重さ：約1g
2	29.10.26	F-15J	フレキシブル・フェア リング・ストラップ・ クリップ	大きさ：約20mm×約17mm 重さ：約1.3g

B-747部品等落下関連



〈千歳F-15部品等落下関連〉



平成 3 0 年 度
苫小牧市航空機騒音対策協議会
要 望 活 動 報 告 書

平成 3 0 年 1 0 月 2 4 ~ 2 6 日

千 歳 ・ 札 幌 ・ 東 京

1 日 程 平成30年10月24日(水) 千歳・札幌
平成30年10月25日(木)～26日(金) 東京
詳細は別紙1のとおり

2 要望活動者 苫小牧市航空機騒音対策協議会
会 長 丹羽 秀則 (千歳・札幌、東京)
副 会 長 星野 邦夫 (千歳・札幌、東京)
委 員 丹治 秀寛 (千歳・札幌)
委 員 松重 茂雄 (東京)
委 員 小倉 巖 (千歳・札幌)
委 員 星 孝二 (千歳・札幌)
委 員 山端 豊城 (千歳・札幌、東京)
委 員 三海 幸彦 (千歳・札幌、東京)
委 員 牧田 俊之 (千歳・札幌)

事務局長 福原 功 (千歳・札幌、東京)
事務局員 小名 智明 (千歳・札幌)
事務局員 柴田健太郎 (千歳・札幌、東京)
事務局員 深山 満展 (千歳・札幌)
事務局員 櫻井 理博 (千歳・札幌、東京)
事務局員 銅 真 (千歳・札幌、東京)

3 要望活動

- (1) 要望先及び要望書宛先 別紙2のとおり
- (2) 要望先対応者 別紙3のとおり
- (3) 要望書 別紙のとおり
- (4) 回答要旨 別紙4～6のとおり

4 要望活動の主な質問に対する回答要旨

別紙7～9のとおり

平成30年度 苫小牧市航空機騒音対策協議会 要望活動日程

10月24日(水) (千歳・札幌)	9:22	国土交通省 東京航空局 新千歳空港事務所
	10:15	新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業の概要説明及び見学
	11:27	航空自衛隊 千歳基地
	14:05	北海道防衛局
10月25日(木) (東京)	11:28	国土交通省 東京航空局
	13:15	堀井 学 衆議院議員
	14:17	国土交通省 航空局
		久保田 雅晴 航空ネットワーク部長
	14:49	田中 英之 国土交通大臣政務官
	14:57	国土交通省 航空局
	15:55	防衛省 航空幕僚監部
	16:15	鈴木 貴子 防衛大臣政務官
10月26日(金) (東京)	10:00	山岡 達丸 衆議院議員
	10:45	橋本 聖子 参議院議員(谷川秘書対応)
	13:15	ANA(全日本空輸株式会社)

平成30年度 苫小牧市航空機騒音対策協議会 要望活動

- 1 日 程 平成30年10月24日(水) 千歳・札幌
平成30年10月25日(木)～26日(金)【2日間】 東京
- 2 要望活動者 ・千歳・札幌 委員8名、事務局6名
・東京 委員5名、事務局4名
- 3 要望先及び要望書宛先名
- 国会議員(議員会館：千代田区永田町)
- | | |
|-------|--------------------|
| 衆議院議員 | 堀 井 学 (国交省・防衛省分) |
| 衆議院議員 | 山 岡 達 丸 (国交省・防衛省分) |
| 参議院議員 | 橋 本 聖 子 (国交省・防衛省分) |
- 国土交通省
- | | |
|-----------|---------|
| 国土交通大臣 | 石 井 啓 一 |
| 国土交通副大臣 | 大 塚 高 司 |
| 国土交通副大臣 | 塚 田 一 郎 |
| 国土交通大臣政務官 | 工 藤 彰 三 |
| 国土交通大臣政務官 | 田 中 英 之 |
| 国土交通大臣政務官 | 阿 達 雅 志 |
- ◎航空局(千代田区霞が関2-1-3)
- | | |
|------------------|---------|
| 局 長 | 蝦 名 邦 晴 |
| 航空ネットワーク部長 | 久保田 雅 晴 |
| 航空ネットワーク部 空港業務課長 | 石 山 英 顕 |
- ◎東京航空局(千代田区九段南1-1-15)
- | | |
|---------------|---------|
| 局 長 | 鶴 田 浩 久 |
| 次 長 | 竹 口 正 美 |
| 総務部長 | 岡 島 雅 人 |
| 空港部長 | 井 上 慶 司 |
| 保安部長 | 今 村 純 |
| 安全管理官 | 水 溜 雅 道 |
| 空港部次長 | 井 村 洋 三 |
| 総務部総務課長 | 東 和 則 |
| 総務部航空振興課長 | 星 正 文 |
| 空港部管理課長 | 櫻 田 薫 |
| 空港部環境・地域振興課長 | 宅 間 和 久 |
| 空港部空港企画調整課長 | 内 村 聖 信 |
| 空港部土木建築課長 | 石 下 谷 強 |
| 保安部技術保安企画調整課長 | 金 城 良 明 |
| 保安部管制課長 | 田 中 たまき |
| 保安部管制技術課長 | 佐 藤 琢 |
- ◎東京航空局 新千歳空港事務所(千歳市美々)
- | | |
|-------|---------|
| 空 港 長 | 沖 津 俊 宗 |
|-------|---------|

■防衛省

		騒音対策	防音
防衛大臣	岩 屋 毅	○	○
防衛副大臣	原 田 憲 治	○	○
防衛大臣政務官	鈴 木 貴 子	○	○
防衛大臣政務官	山 田 宏	○	○
◎防衛政策局（新宿区市谷本村町5-1）			
防衛政策局長	槌 道 明 宏	○	
防衛政策課長	大 和 太 郎	○	
運用政策課長	米 山 栄 一	○	
◎地方協力局（新宿区市谷本村町5-1）			
地方協力局長	中 村 吉 利	○	○
地方協力企画課長	山 野 徹	○	○
地方調整課長	熊 谷 昌 司	○	○
防音対策課長	本 田 光 徳	○	○
◎航空幕僚監部（新宿区市谷本村町5-1）			
航空幕僚長	丸 茂 吉 成	○	
総務部長	荒 木 哲 哉	○	
運用支援・情報部 運用支援課長	大 嶋 善 勝	○	
総務部 総務課 基地対策室長	北 川 英 二	○	
◎航空自衛隊第2航空団（千歳市平和）			
千歳基地司令	寺 崎 隆 行	○	
◎北海道防衛局（札幌市中央区大通西1-2）			
局 長	高 木 健 司	○	○
次 長	三 輪 恒 佳	○	○
企画部長	辻 吉 巳	○	○
統括調整官	佐 藤 智 浩	○	○

平成30年度 苫小牧市航空機騒音対策協議会 要望先対応者

地元選出国會議員

自由民主党
自由民主党
国民民主党

衆議院議員
参議院議員
衆議院議員

堀井 学
橋本 聖子(秘書対応)
山岡 達丸

国土交通省

国土交通大臣政務官

田中 英之

航空局 航空ネットワーク部
航空ネットワーク部 空港業務課
" "
" 航空ネットワーク企画課
" "
" 空港計画課

部長(表敬訪問)
課長
専門官
環境・地域振興調整官
空港運営権企画調整官
専門官

久保田 雅晴
石山 英顕
青木 祐人
山本 昌明
牧田 聡二
片岡 栄

東京航空局 空港部
"
" 環境・地域振興課
" 土木建築課
" 空港企画調整課
" 空港企画運用課
" 管理課
"
" "
" 総務部 総務課

部長
次長
課長
課長
課長
課長
課長補佐
空港経営改革調整官
前任航空機検査官
前任整備審査官
専門官

井上 慶司
井村 洋三
宅間 和久
石下谷 強
内村 聖信
市谷 計
大下 勝正
中山 勝也
小松 茂
大平 隆
佐藤 有正

東京航空局 新千歳空港事務所
"
"
"
"
"
"
"

空港長
次長
総務部長
管制保安部長
施設部長
総務課長
総務課長補佐
前任施設運用管理官
総務課

沖津 俊宗
四淵 靖宏
平原 正記
小谷 浩一
森川 末広
青木 善昭
村山 悟
岩田 剛彦
三木 拓真

防衛省

防衛大臣政務官

鈴木 貴子

航空幕僚監部 総務部
" " 基地対策室

部長
室長

荒木 哲哉
北川 英二

北海道防衛局

局長(表敬訪問)
次長(表敬訪問)
統括調整官
室長
課長

高木 健司
三輪 恒佳
佐藤 智浩
松川 雄一
木本 義博

航空自衛隊第2航空団
司令部 監理部
"
"

部長
基地対策室長
基地対策専門官

佐藤 泰
高橋 秀年
見澤 和哉

要 望 書

「航空機騒音の一層の軽減及び安全対策」について、別記理由により特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年10月 日

苫小牧市長 岩倉博文

苫小牧市航空機騒音対策協議会
会長 丹羽秀則

理 由 書

新千歳空港は、国際線ターミナルビルの整備など国内線及び国際線の拠点空港として、基盤を整えてきております。

一方、航空機の離着陸機数の増加、運航時間の延長により、航空機の騒音や事故など一層増えており、空港周辺の住民は、生活環境への影響や航空機事故に対する不安を抱えながら、生活している状況にあります。

国におきましては、騒音軽減対策及び安全対策を実施されているところではありますが、さらに下記事項について、貴職の特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 着陸時における住宅街での飛行高度を遵守すること並びに離陸時における通常の飛行コースを遵守すること

また、離陸時の飛行として住宅街を避けるコースを設定すること

- 2 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること

特に、深夜の静穏保持の観点から、遅延便等の一層の抑制に向け、航空会社への指導強化を行うこと

- 3 低騒音機種への切替えを促進すること

- 4 外国貨物機の騒音軽減について引き続き指導を行うこと

- 5 航空機等の点検整備など、安全管理を徹底すること

また、航空機事故の情報や事故原因、再発防止策等について情報提供すること

要 望 書

「航空機騒音の一層の軽減及び安全対策」について、別記理由により特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年10月 日

苫小牧市長 岩倉博文

苫小牧市航空機騒音対策協議会
会 長 丹羽秀則

理 由 書

千歳飛行場は、航空自衛隊の基幹飛行場として重要性が高まっております。

近年、千歳飛行場では、航空自衛隊の通常訓練と政府専用機の訓練に加え、在日米軍再編に伴う訓練移転の開始により航空機騒音が増え、また、自衛隊機や米軍機の事故など繰り返し発生しております。

一方、宅地開発などにより、航路下地域の人口が増加するなど周辺環境に変化が現れてきております。その結果、飛行場周辺の住民は、航空機騒音による生活環境への影響を受け、また、戦闘機事故に対する不安を抱えながら生活をしている現状にあります。

国におきましては、騒音軽減対策及び安全対策を実施されているところでありますが、さらに下記事項について貴職の特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 市街地上空での低空飛行を避けること
- 2 通常訓練の離着陸コースを遵守すること
- 3 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること
- 4 訓練・演習における土日祝日の飛行を避けること
- 5 自衛隊機等の点検整備など、安全管理を徹底すること

また、自衛隊機事故等の情報や事故原因、再発防止策等について情報提供すること

要 望 書

「防音対策事業」について、別記理由により
特段の御高配を賜りますようお願い申し上
げます。

平成30年10月 日

苫小牧市長 岩倉博文

苫小牧市航空機騒音対策協議会
会 長 丹羽秀則

理 由 書

千歳飛行場周辺整備事業につきましては、日頃から格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

厳しい財政事情の中にあつて、逐年飛行場周辺地域の環境整備がなされており、感謝に堪えない次第でございます。

しかしながら、千歳飛行場の南方周辺は航空機の頻繁な離着陸による騒音障害と、在日米軍再編に伴う訓練移転の開始により、騒音がさらに増え、周辺住民の生活安定及び福祉の向上のための諸対策が強く望まれております。

つきましては、下記事項について、貴職の特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 住宅防音助成については、対象区域を70Wまで拡大するとともに、全室を対象とし、告示後の新築住宅についても対象とすること

要望事項に関する回答要旨（国土交通省）

要望事項	新千歳空港事務所	東京航空局	国土交通省 航空局
<p>1 着陸時における住宅街での飛行高度を遵守すること並びに離陸時における通常の飛行コースを遵守すること また、離陸時の飛行として住宅街を避けるコースを設定すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・皆様方と共存した上で、しっかりと対策をしていく必要があると思っている。 ・飛行コースについては、引き続き、我々も関係航空会社の指導をしていきたい。 ・航空機の低騒音化や技術の進展もあるので、更なる航空機騒音の軽減対策について、本省航空局と連携して対応していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要望事項に対する回答については、新千歳空港事務所と同様。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要望事項に対する回答については、新千歳空港事務所と同様。
<p>2 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること 特に、深夜の静穏保持の観点から、遅延便等の一層の抑制に向け、航空会社への指導強化を行うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、航空会社に対してヒアリングをしているが、今回の地震の対応で直接的な話ができなかった。 ・電話等によるヒアリングでは、各航空会社は十分、対応していて、便によっては日中の時間帯飛んでいたものを移行したり、或いは遅延が出ない為に、航空機が到着して出発するまでの時間は大体1時間程度だが、そこを2時間くらいとって仮に前便が遅れても出発ができる対策をとっている。 ・そういったところで、一定の成果が出ていると考えており、空港事務所としても、継続的に取り組みしっかりと航空会社に要請していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上
<p>3 低騒音機種への切替えを促進すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既に様々な措置を継続している。 ・飛行高度の引き上げや住宅地域の回避飛行に関しては、今後も継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上
<p>4 外国貨物機の騒音軽減について引き続き指導を行うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低騒音機の導入が最も重要な手段であると認識しているが、継続の要望として、東京航空局並びに本省航空局に伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上
<p>5 航空機等の点検整備など、安全管理を徹底すること また、航空機事故の情報や事故原因、再発防止策等について情報提供すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重大インシデントが発生していることから、地域の方々も非常に心配かと思う。 ・我々も航空の安全運航の確保が最重要課題と認識している。 ・安全運航については、安全監査という制度を平成18年度から導入している。 ・発生した事故については、運輸安全委員会が事故原因の究明を行い、再発防止策をして、各航空会社が対策をとっている。 ・ヒヤリ、ハットした細かい事例を集めて、年に1回程度、専門家の方々を集めて議論している。 ・今後も安全運航の確保に万全を期して航空会社に対する指導や監督を実施し、地域の方々安心して生活できる環境を作っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上

<p>※ 融雪剤の使用量倍増による、美沢川の水質について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冬は、凍結防止剤を撒布して地域の皆さんに不安を与えているというところは、否定しない。 ・しかし、調整池に溜まった水については、放流するまでの間、池に溜めて、放流基準値まで下がったことを知った上で、関連の方々と調整して、美沢川への放流をしている。 ・数値が高い時は、放流量を少し抑えながら、美々川での数値を上回らないように調整している。 ・散布剤は、10年位前から1番環境に優しい蟻酸系の薬剤を使用している。 ・社会的影響が増えている状況もあって、昨年度あたりから積極的な散布を始めている。 ・これまでと同様に凍結防止剤は基本的に、1番環境に優しいものを使用し、散布方法については、昨年度と同様に、路面にできた圧雪をまず飛ばして、できるだけ薬剤を少なくするなど、効果が得られるような方法を継続していきたい。 ・薬剤の量を減らす抜本的な対策はないのか、模索しており、対策について、調査に動き出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水質調査をして、BODが基準以下になった場合において、報告を行いながら放流している。 ・引き続き、同様の対応をしたいと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上
----------------------------------	--	---	---

要望事項に関する回答要旨（防衛省） 騒音軽減・安全対策

要望事項	北海道防衛局	航空自衛隊 第2航空団	鈴木防衛大臣政務官	航空幕僚監部
1 市街地上空での低空飛行を避けること	<ul style="list-style-type: none"> ・飛行訓練については、自衛隊は平素から機体の定期整備、飛行前後の点検、隊員の安全教育等を行い、安全管理を徹底しているものと承知している。 ・騒音等による飛行場周辺への影響を最小限とするよう、深夜早朝並びに土曜日、日曜日及び祝日の飛行は、可能な限り回避するよう配慮しているが、緊急発進や災害派遣等により、飛行する場合があるということについては、理解をいただきたい。 ・要望いただいた内容については、自衛隊にしっかりと伝えるとともに、事故等にかかる情報については、自衛隊と連携し苫小牧市を含む関係自治体に、速やかに情報提供できるよう努めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飛行訓練については、航空法等に基づき、それを遵守し実施している。 ・他基地から飛行訓練等で来たパイロットに対しても、千歳基地特有の制約事項等のブリーフィングなど、教育指導を実施している。 ・今後も飛行安全を念頭におきつつ、騒音低減に配慮してまいりたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・安全を確保する為に必ず飛行ルートを考えながら、皆様の迷惑にならないような形で考えている。
2 通常訓練の離着陸コースを遵守すること	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・天候等の状況により、安全を優先して、雲を避ける飛行する場合があることも十分理解いただきたい。 ・可能な限り騒音の軽減に配慮してまいりたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・天気が悪い時に雲の中を飛ぶと非常に危険で大きな事故が起こってしまう。 ・そこについては、ご理解をいただければと思っている。

要望事項	北海道防衛局	航空自衛隊 第2航空団	鈴木防衛大臣政務官	航空幕僚監部
3 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること	・ 同上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 深夜早朝の飛行訓練を自粛しているが、緊急発進、災害派遣等の任務や上級部隊が計画する演習については、飛行する可能性があることを理解いただきたい。 ・ 緊急発進については、北海道周辺日本周辺を取り巻く厳しい環境を十分理解いただきたい。 		
4 訓練・演習における土日祝日の飛行を避けること	・ 同上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土日及び祝祭日には、通常の飛行訓練は計画していないが、上級部隊が計画する演習、航空祭及び他基地への展示飛行等の支援については、飛行する場合がありますので、理解いただきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 早朝夜間の訓練については、なるべく皆様の要望にお答えしていきたい。
5 自衛隊機等の点検整備など、安全管理を徹底すること また、自衛隊機事故等の情報や事故原因、再発防止策等について情報提供すること	・ 同上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平素より、定期的な整備、飛行前飛行後の点検等を適切に実施するとともに隊員教育を実施して、事故防止に努めているが、これまでと同様、安全確保を強化してまいります。 ・ 万が一、事故等が発生した場合には、苫小牧市への速やかな情報提供に心がけていきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦闘機は、必ずチェックしているが、どうしても落ちてしまうことがある。 ・ 回数を減らすように、頑張っていくので、協力と支援、理解を賜りたい。

要望事項に関する回答要旨（防衛省）防音対策

要望事項	北海道防衛局	鈴木防衛大臣政務官
<p>1 住宅防音助成については、対象区域を 70W まで拡大するとともに、全室を対象とし、告示後の新築住宅についても対象とすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飛行場周辺において、環境基本法に定められた航空機騒音にかかる環境基準の趣旨を踏まえ、75W 以上の区域において、屋内で 60W 以下になるよう住宅防音工事の助成の処置をとっている。 ・75W 未満の区域の住宅防音工事の取扱いについては、住宅防音事業の今後の在り方に関わる課題であると認識しているが、全国の住宅防音事業の進捗状況等を踏まえ、今後の検討課題ということで考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防音対策について、制約はあるが、できるだけ皆さんの思いをしっかりと汲み取って対応しないといけないというのが基本だと思っている。

要望活動時の主な質問に対する回答要旨

《新千歳空港事務所》

●融雪剤の使用について

Q 平成 29 年度は、融雪剤の使用料が非常に多い。何故こんなに多くなっているのか。

A 20 年前は、環境やお金の話もあり抑制していたが、欠航便が増えたこともあり、今は凍結防止剤を有効に使っている状況。

量は大幅に増えているが、凍結防止剤は 1 番環境に優しいもの使い、できるだけタイムリーな時間帯に飛行している。

●調整池について

Q 調整池による環境対策は千歳空港独特のものなのか。また、異常な降雨対策として、調整池の泥を取り、容量を確保する以外の工夫はないのか。

A 調整池方式は、国内では新千歳のみと思っている。

また、考えられる対策としては、水中の溶存酸素を増やししながら、BOD の上昇を抑える方法を考えていきたい。

薬剤散布を増やさない抜本的な対策について模索しており、対策について、調査に動き出しているところ。

Q 他空港は、どのような環境対策をしているのか。

A 薬剤の付いた水・雪については、そのまま流れていると思う。

●安全対策について

Q 航空機の安全対策として、航空会社に対して安全監査などの義務付けをやっているのか。

A 航空会社で気付いたものについては、会社で対策を打って公表するルールがある。

また、大きな事故等の場合は、航空局に報告をするが、さらに大きい事故になると、運輸安全委員会が直接分析をして、事故原因や対策の提言を出す。

Q 安全監査は行っているのか。

A 航空会社の運航体制や整備体制について、自ら運航を確保するために整備を行っており、それらを定期的に監査している。

Q 安全監査は抜き打ちでやるのか。

A 抜き打ちは、外国航空会社に対して行っている。

●飛行コースについて

Q 日本や外国のエアラインが、離陸時に関西方面への飛行する時、既定のルートで飛んでいないように見受けられる。指導していただけないか。

A 悪天候や他航空機を避ける以外には、規定のルートで飛ぶようにしている。勝手に飛ぶことはないと思うが、管制に話をして、しっかりと対応したい。

既定のルートを飛行しない状況には、それなりの理由があることを理解いただきたい。

●駐車場の混雑緩和について

Q お盆など、空港周辺が渋滞してひどい。B 駐車場は大きくなったが、A 駐車場にも拡張計画はあるのか。

A 立体駐車場が完成して、駐車台数は増えたが、それ以上に旅客の伸びが増えているので、時折混雑している。

また、国際線ターミナルビルの整備もあり、周辺の道路が混雑している状況。整備地帯も含めて、できる限りの混雑緩和に取り組んでいきたい。

Q 飛行機を利用する以外の人々のデータはあるのか。また、駐車場の拡張計画がどういう状態になっているのか。

A 純粋な航空旅客なのか、それ以外のお客様なのかという仕分けは非常に難しい。

また、拡張計画については、持ち合わせていないが、繁忙期については、空港従業員の一定期間、一定の場所に退いていただく対策はとっている。

●第2ターミナルビルの建設について

Q 当初の計画では、マスタープラン上で第2ターミナルビルを建設する予定があったはずだが、今どのような状態になっているのか。

A その辺については、東京のほうでしっかり回答させていただきたい。

●JR 新千歳空港周辺路線の見直しについて

Q 千歳線が空港に乗り入れという報道があった。空港から苫小牧方向に行く場合、南千歳で乗り換えて行く、非常に不便な状態である。この路線の見直し計画は、どこが窓口なのか。

A 空港整備計画全体の話なので、航空局の計画管理、鉄道局も含めて調整中であると思う。

《防衛省 航空自衛隊 千歳基地》

●北海道東胆振地震について

Q ヘリコプターは千歳基地も持っているのか。

A 千歳救難隊で持っている。パイロットを救出するのが第一義だが、平時では、災害派遣等に使われている。

Q 救出における交代制は、何時間くらいで行っていたか。

A 発災当初は、交代計画ができないまま、踏み込んでいたので、第1陣の隊員は24時間位、昼夜活動した。その後は、安定したシフトで進めた。

また、生存の可能性がある72時間が勝負だと思っているので、その時間の中においては多少の疲労でも、全力を尽くして捜索活動に集中するという原則で活動している。

●日豪共同訓練について

Q オーストラリアとの共同訓練が中止になったが、今後、同じ訓練はあるのか。

A この訓練が、延期になったのか、未来永劫やらないのかということは、わからない。極めて政治事情が強い話になってくる。

《防衛省 北海道防衛局》

●沖縄負担軽減について

Q 国において沖縄の負担軽減の検証を行い、情報提供してほしい。

A 一例として、沖縄防衛局の自動測定装置による航空機の騒音状況は、滑走路東側で、グアム等の訓練移転の実施前である平成 22 年度は 96.6W だが、訓練移転実施期間中は 92.5W と 4.1W 減少した。西側でも 93W が、移転訓練中は 89.7W となり、3.3 下がった。

また、嘉手納飛行場周辺において、目視による 1 日平均離発着回数は、移転前 123 回だが、移転期間中は 107 回で、平均 16 回減少している。

Q 沖縄負担軽減の数値は平成 22 年のことか。

A 平成 22 年と平成 29 年 5 月までの比較データとなる。年間の平均を単純に比較すると、4 ないし、3 は下がる。

Q 沖縄から移転している期間はどのくらいか。

A 年間 4、5 回位で 1 週間から 2 週間位なので、全体として、1 ヶ月から 2 ヶ月くらい。

●日豪共同訓練について

Q 日豪共同訓練は中止になったが、今後アメリカ以外の国と千歳基地を利用した共同訓練を行う考えはあるのか。

A 白紙になったので、今後どのようにやるのかわからない状態。そのような話があれば、速やかにお知らせする。

Q オーストラリアの航空機はどのような機体か。

A 今回予定していたのは、FA18 という岩国で使っているのと同じ機体である。

●オスプレイの配備について

Q オスプレイは、千歳飛行場にも配備になるのか。

A 現時点で道内の空港に配備するという予定はない。

●住宅防音について

Q 住宅防音の告示日の見直しについて、全国的に進めているという報道を聞くが、千歳基地を見直す予定はあるのか。

A 千歳の見直しについては、いつやるという話はない。

●千歳飛行場の東側滑走路について

Q 2 空の旧千歳飛行場滑走路を民航機でも使用したいという報道を見たが、その後の情報があれば教えて欲しい。

A その後の動きとしては、中で検討されているのではないかと思う。便数を増やして観光客を誘致する趣旨については、省として否定するところは多分ないと思う。

《国土交通省 東京航空局》

●安全監査について

Q 安全管理について、特別な対策はしているのか。

A 航空法に基づいて安全監査、点検をしっかりと行っている。再発防止策や安全対策、対外的にも透明性のある形で情報公開を行いながら進めていく。

●落下物防止対策基準について

Q 国土交通省では、落下物防止対策基準を作ると聞いたがどうなっているのか。また、外国の航空会社にも適用するのか。

A 東京航空局では、落下物対策を検討しており、今年9月に落下物防止対策基準を設定した。エアラインへの適用は、来年1月位で考えており、3月頃には外国エアラインにも、適用することを考えている。

●第2ターミナルビル計画について

Q 第2ターミナルビルについて、計画はないのか、分かる範囲で教えて欲しい。

A マスタープランでは、長期的な計画として第2ターミナルビルの計画があった。その計画は、まだ継続している状況。

Q マスタープランの見直しについては、国土交通省なのか北海道なのか。

A 国管理空港なので、最終的には国に主体性があると思う。

《国土交通省 航空局》

●落下物防止対策基準について

Q 落下物防止対策基準を作り、各航空会社に義務付けすることで聞いているが、内容はインターネット等では見られるのか。

A 落下物防止対策基準をこの夏に作ったばかり。これから、日本の航空会社だけではなく、外国の航空会社も含めて、落下物関係の整備や社内の教育を徹底するよう遵守を求める。インターネットでも、部品等脱落防止措置に関する技術基準を公開している。

Q 落下物防止対策基準とは、どのような内容か。

A 落下物が発生しそうな部位や部品に関する対応を記載している。また、航空会社における整備や教育、訓練の徹底、再発防止体制の確保を求める内容となっている。

《全日本空輸株式会社(ANA)》

●遅延便の増加について

Q 遅延等が発生する原因や今後の対策などについて教えてほしい。

A 外的要因として、防衛関係などの理由から飛行が増えることで混雑環境になっている。加えて、LCC増加による空路の混雑、悪天候、特に台風、大雪などが遅延の理由。

今後の対策として、お客様をゾーン別に区分し乗降させることや便と便の間を空ける、ダイヤの設定など、様々な工夫をしている。一つ一つできるところから取組んでいきたい。

●機材故障について

Q 機材故障が多い気がする。

A 機材故障といっても理由は多岐にわたるが、当該飛行機の機材故障というよりは、どこかで故障したことが、最後まで影響することが多い。満席時の椅子の故障やライトの故障など、割と軽微な故障が多い状況。

●安全管理について

Q 安全管理については、整備基準を策定して、民航機への指導をさらに徹底すると聞いているが、その点に関して難しいことはあるのか。

A 特にないが、航空局は安全管理については非常に厳しく、落下物防止については、特に厳しい。例えば、エンジンの騒音を下げるときの吸音パネルがあり、そのパネルの穴が潰れていると飛行することができないなど、飛行に影響がない事案でも厳しく指導されている。

●遅延便について

Q 昨年度は、79便、84便、719便が特に遅延が多かった。今後の対策について教えて欲しい。

A 79便については、定時制の向上に加え、便自体を減便するなど、沖縄の定時制向上に努めていきたい。84便については、冬ダイヤから機材繰りを見直して、遅延が発生しない形をとるので、改善が図られると思う。719便については、冬の設定はないが、場合によっては深夜枠に設定することを考えている。

●深夜の貨物便について

Q 深夜の貨物便をやめる理由があるのか。

A 理由としては、物量が減ってしまったこと。おそらく、ロジスティックスや物流の仕組みが変わってきたと分析している。